

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和7年7月3日（木）

### 2 確認箇所

- ・ 5 / 6号機取水路開渠（図1）
- ・ J9タンクエリア（図1）

### 3 確認項目

- (1) 5 / 6号機取水路開渠内棧橋設置作業の状況
- (2) J9タンクエリアタンク解体作業の実施状況

### 4 確認結果の概要

#### (1) 5 / 6号機取水路開渠内棧橋設置工事の状況

多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）は、トリチウム濃度が1,500 Bq/L未満となるよう、海水で十分に希釈してから海洋に放出している。

希釈用の海水は、5 / 6号機取水路開渠（港湾内）から5号機取水路を通じて取水している。取水に伴い港湾外から5 / 6号機取水路開渠内に砂が流入し、取水に影響を及ぼす恐れがあるため、海底の堆砂状況に応じて浚渫作業が行われている。

今回は、浚渫作業効率化のため、5 / 6号機取水路開渠内北側に棧橋の設置が計画されていることから、その作業の状況について確認を行った。

（前回確認：令和7年2月7日）

- ・ 当日は、棧橋の設置工事が進められており、棧橋へガードレールの取り付けが行われていた。また、作業員は墜落制止用器具（フルハーネス）及びライフジャケットを着用しており、安全対策が適切に講じられていた。（写真1）
- ・ 棧橋の北側では浚渫作業が行われていた。（写真2）
- ・ 棧橋の南側では、捨石マウンド\*の撤去が行われていた。（写真3）
- ・ 港湾内に汚濁拡散防止フェンスが設置されていた。（写真4）
- ・ 確認した範囲において、重機からの油漏れ等の異常はなかった。

※捨石マウンド

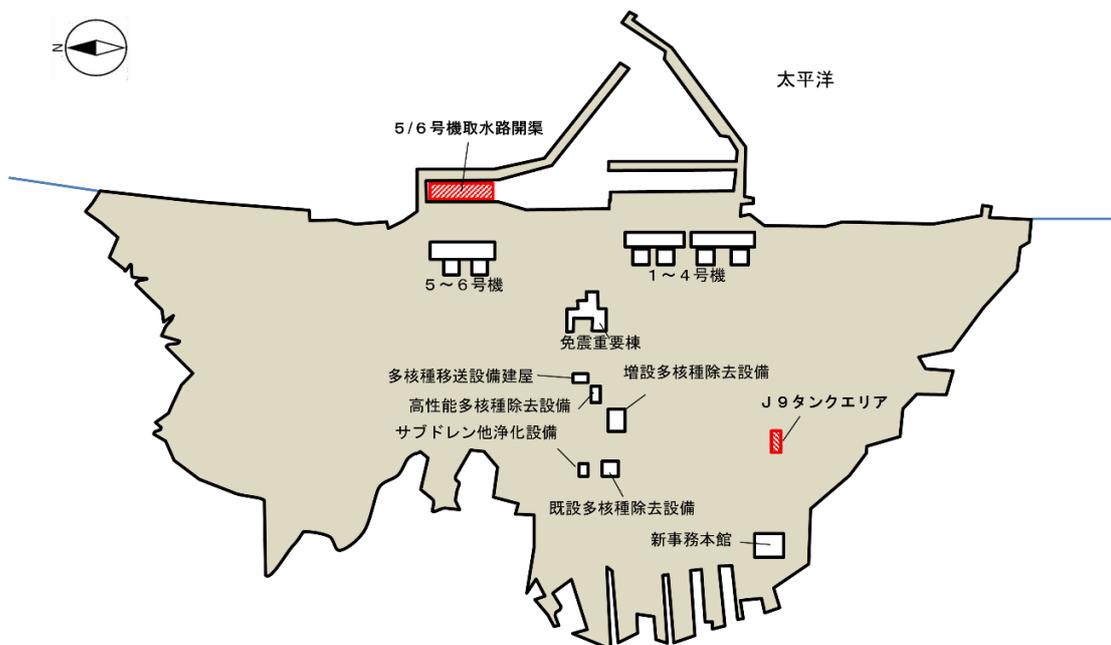
防波堤や護岸の基礎として多用される捨石で造った台。東京電力では年3回程度浚渫工事を行っている。浚渫工事では、都度捨石マウンドを構築し、浚渫工事が終わった後捨石マウンドを撤去している。棧橋を設置することで棧橋上からバックホーを利用して堆積した土砂の浚渫を行うことができ、より効率良く浚渫工事を行えるようになる。

## (2) J9タンクエリアタンク解体作業の状況

J8及びJ9タンクエリア（ALPS処理水が貯留されている）では、3号機の燃料デブリ取り出し関連施設の建設が予定されている。J9タンクエリアでは、エリア内に設置された溶接型タンクの解体が令和6年度下期から令和7年度末にかけて計画されている。

本日は、J9タンク解体工事の実施状況について確認した。（前回確認：令和7年4月14日）

- ・ J9タンクエリアでは全12基中9基目の溶接型タンクの解体が完了していた。（写真5）
- ・ 当日は、タンク減容ヤードで切断作業が行われていた。（写真6）
- ・ J9タンクエリア西側の単管パイプで区画されたエリアで、解体されたタンクやその付属品の解体片が仮置きされていた。（写真7）
- ・ 確認した範囲において、解体片の飛散等の異常はなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1①) 栈橋の設置工事



(写真1②) ガードレールの取付準備



(写真2①) 浚渫作業



(写真2②) 土砂の積み込み



(写真3①) 捨石マウンドの撤去



(写真3②) 捨石マウンドの積み込み



(写真4) 汚濁拡散防止フェンス



(写真5) タンクの解体状況



(写真6) 切断作業



(写真7) 切断後のタンク

## 5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。